

さいたま市長 3月定例記者会見

平成26年3月27日（木曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社の日本経済新聞社さん、進行をよろしくお
願いします。

○日本経済新聞 3月の幹事社を務めます日本経済新聞と申します。よろしくお願いま
す。

まず、本日の記者会見の内容について市長からよろしくお願ひします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。

早いもので、今年度最後の定例記者会見となりました。今から思い返し
ますと、平成25年度は政令市移行10年周年を迎え、各区での記念行事
に加え、さいたまクリテリウム by ツールドフランスの開催、第8回世界
盆栽大会の誘致という、本市の未来に種をまき、礎を築くような事業を実
施することができた、まさに記念の年となりました。

加えて、春の選抜高校野球での浦和学院の全国優勝を初め市立浦和高校
サッカー部や県立浦和高校のラグビー部などの活躍は、記念の年にふさわ
しい明るいニュースももたらしてくれました。とはいえ、立ちどまる間も
なく、平成26年度、本市はさらに選ばれる都市の実現に向けて新たなス
タートを始めたところでございます。再び全庁を挙げて市民一人一人が幸
せを実感できるさいたま市に取り組んでいく所存であります。今後とも市
民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

それでは、議題の説明に入らせていただきます。

市長発表：議題1 「さいたま新都心将来ビジョンを策定しました」

まず、議題1、「さいたま新都心将来ビジョンを策定しました」について
ご説明をさせていただきます。

このたび、さいたま新都心地区の周辺における大規模な土地利用転換の
動向を見据え、さらなる安心安全とにぎわいを創出し、良好な都市環境の

形成に向けた取り組みの検討を行うため、「さいたま新都心将来ビジョン」を策定したので、その概要を説明させていただきます。

このビジョンは、平成24年3月から局長級で構成をいたします市内検討会議で検討を進め、有識者からの専門的な助言をいただくとともに、パブリックコメントを実施し、策定をしたものでございます。

このビジョンの位置づけは、市の総合振興計画や都市計画マスタープランをはじめ国、県、市の上位計画及び関連計画と整合性を図り、今後のさいたま新都心周辺地区のまちづくりの基本的な指針としての役割を担うものでございます。

また、ビジョンの検討区域に隣接する周辺地域の個別計画などと相互に連携、反映することを目指しております。ビジョンの運用期間は、おおむね10年程度を見込んでおります。

まず、ビジョンの対象地域でございますけれども、北側については南大通り東線、それから東側につきましては産業道路、また南側は赤山東線、そして西側は国道17号と一部北与野駅周辺のエリアも取り込んだ形でのライン、区域ということで、全体で約200ヘクタールとなります。

本地域のまちづくりの課題を「にぎわいに関すること」、それから「安心安全に関すること」、また「公園、緑に関すること」という（3つの課題という）観点から、6つの観点で整理をさせていただきました。

まず、「にぎわいに関すること」についてでございますが、「大宮駅周辺地域との回遊動線の確保、そして都市機能の連携・分担」、また「人々が行き交う新たなにぎわいの創出」及び「交通拠点性の向上」というものを挙げております。

また、「安心安全に関すること」については、大規模震災を見据えまして、「防災機能の強化・充実」を検討していくということにしております。

それから、「公園・緑に関すること」としましては、「公園空白地の解消」ということを挙げております。

この3つの観点を実現するための施策の中から、まちづくりとして行政が積極的に取り組むべき具体的な先導プロジェクトというものを3つ掲げております。

まず、先導プロジェクトの1つ目でございますけれども、「公共公益施設

（交通広場等）の整備の検討」ということとさせていただきます。このプロジェクトは、さいたま新都心を訪れた方の利便性の向上を図り、交通拠点性を高めるため、北袋1丁目に長距離バス・観光バスなどの発着点として交通広場の整備を検討するものとさせていただきます。

また、大宮駅との連携を強化し、相互利便性を高めるため、大宮区役所移転予定地を経由するシャトルバスなどの導入についても検討していくこととしております。

2つ目の先導プロジェクトでございますけれども、これは「防災機能を持った公園整備の検討」として、さいたま新都心の広域防災・医療拠点を補完するようなオープンスペースの整備を検討してまいります。

これは、現在新都心東側にございます三菱マテリアル用地を想定しており、防災機能を持った都市公園として整備し、普段は市民のみどりの憩いの場とするものとさせていただきます。

次に、先導プロジェクト3ということで、「公園整備を中心としたみどりの回廊形成」の検討ということとさせていただきます。このプロジェクトは、2つ目の先導プロジェクトであります「防災機能を持った都市公園の整備」にあわせまして、大宮公園、見沼田んぼ、氷川参道、中山道のケヤキ並木などとのつながりを持たせ、みどりの連続性を創出するものであります。

これらの行政が取り組むべき先導プロジェクトを今後10年程度を目標期間として実現させ、片倉工業や三菱マテリアルなどの多くの民間プロジェクトの動向を見ながら大宮駅周辺と一体となった都心を形成し、首都圏をはじめ国内外の多くの人々が行き交う独創的なまちとしていきたいと考えております。

市長発表：議題2「目指せ日本一！サクラサク見沼田んぼプロジェクト植樹祭を開催します」

続きまして、議題の2であります「目指せ日本一！サクラサク見沼田んぼプロジェクト植樹祭を開催します」についてご説明をさせていただきます。

まず、このプロジェクトは平成25年から5年間で総延長20キロメートル超の日本一の桜回廊を目指そうというものであります。このプロジェ

クトの特徴は、市民、団体、事業者等からの寄附による植樹を基本とすること（です）。

平成25年11月8日には、市民団体、事業者等33団体による「目指せ日本一！サクラサク見沼田んぼプロジェクト実行委員会」を設立いたしました。

また、平成26年1月1日からさいたま市公園緑地協会に「日本一の桜回廊寄附金」を開設いたしまして、大きく寄附金などを募っていくということでございます。今回第1回の植樹祭を行い、桜の拠点を創出し、まちづくりと一体性を持った桜回廊づくりを目指してまいります。

この第1回目の植樹祭についてでございますけれども、日時は平成26年3月29日土曜日11時からでございます。

場所は、見沼区東宮下の七里総合公園北側の埼玉県の公有地をお借りして実施させていただきます。

当日は、実行委員会委員や寄附をしていただいた方、また東宮下小学校の生徒保護者を含め100名を超える皆さんにご参加をいただき、桜の苗木の植樹を行ってまいります。

植樹会場のほか、見沼代用水沿いに約100メートルの桜並木を植樹いたします。式典後には、一般の方も参加可能な記念植樹ができることになっています。さらに、先着50名の方に桜の苗木のプレゼントを行ってまいります。

また同日、七里総合公園では13時30分から「見沼田んぼクリーンウォーク」も行います。なお、本式典会場は同日開催の「さいたまマーチ」の20キロのコースの一部ともなっております。

これまで寄附をしていただいた団体、また企業を一部ご紹介させていただきますと、既に多くの方にご寄附をいただいております。ここでは5万円以上の寄附をいただきました団体、企業をご紹介させていただきます。

大宮見沼ライオンズクラブ、国際ロータリークラブ第2770地区第1グループ・第2グループ、さいたま桜ライオンズクラブ、さいたま商工会議所女性会、さいたま商工会議所青年部、七里商工会、また市民団体・自治会等としましては、ピッツバーグ市さいたま市姉妹都市協会、七里地区自治会連合会、見沼区自治会連合会でございます。

一般企業では、医療法人一成会さいたま記念病院、埼玉トヨペット株式会社、株式会社タムロン、株式会社東京電力さいたま支社、東日本旅客鉄道株式会社大宮支社、株式会社プリザベーション・テクノロジーズ・ジャパン、株式会社武蔵野銀行の7企業でございます。

個人から5万円以下の方も含め22名からご寄附をいただいております。募金箱には約1万円が募金されております。調整中も含め、苗木による寄附は18本、「日本一の桜回廊寄附金」には約300万円のご寄附がございます。

植樹祭会場では、この寄附の中から41本の苗木を植樹させていただきます。

当日は、青空のもと、日本一の桜回廊を目指すための第一歩を踏み出したい、皆様の絆を結び、さいたま市民の誇りとなる憩いの場をここ見沼田んぼにつくっていきたいと考えております。

また、市民の皆様には、見沼クリーンウォーク、またさいたまマーチなどで気持ちのいい汗をかく1日となってほしいと考えております。

私からの説明は以上です。

議題に関する質問

- 日本経済新聞 市長からの説明についてご質問があればお願いします。
- 埼玉新聞 埼玉新聞です。さいたま新都心将来ビジョンについてなんですが、防災機能を持った都市公園やオープンスペースの整備に関して、議会で三菱マテリアルの地下に核関連の廃棄物が埋まっているという質問がありましたが、仮にこれを市が整備するとした場合、土地を購入して整備した場合、その核の管理とか責任なんかも市に移管される可能性があるということでしょうか。
- 市 長 現状は、あそこに三菱マテリアルのさいたま事務所というのがあって、その地下に既にそういった外部に影響がないような形で管理保管されている状況で、ほかの場所についてはもう既に影響がないという状況になっております。ですから、それは三菱マテリアルがきちりと法律に基づいて管理をされていると。これは、さいたま市も定期的に環境局が調査といいますかね、それは行っておりますので、現時点ではしっかりと管理をさ

れていると。

また、その場所のほうはもう既に影響がないように処理をしていただいているものでございますので、そのようにご理解をいただきたいと思いません。

- 埼玉新聞 公園とは距離が離れているということですよ。
- 市長 そちらのほうは、しっかりとした建物の中でしっかり管理をされていると。法律に基づいた規制に沿った形で管理されているという状況がもう既にできていると。それとは別の場所に公園ができるということです。
- 毎日新聞 毎日新聞ですが、新都心の計画のほうで先導プロジェクトの3つを10年をめどにということだったのですが、もう少し具体的に、例えばこの3つの中でどれか優先するものがあるですとか、あるいは防災公園の整備については10年というスパンだと先過ぎるような気もするのですが、そのあたり市長の考えがあればお聞かせください。
- 市長 10年間をめどにということにはしていますが、できるだけスピーディーにしていきたいと。
特にさいたま新都心周辺については、余裕のある避難場所という意味では必ずしも充足した状況ではないと思っており、(防災公園は)そういった役割を持っていると思っておりますので、できるだけ早く整備をしていきたいと思っております。あと、長距離バスターミナルについても私としてはできるだけ早く整備をしていきたいと思っております。
- 毎日新聞 この3つのプロジェクトの中で優先度が特に高いというふうに市長が思われているものというのは。
- 市長 恐らくバスターミナルと防災公園とは事実上セットみたいな上と下という形になると思いますので、これはかなりリンクしてくることになりますよね。
- 事務局 計画管理課です。防災公園とバスターミナルについては隣り合わせで整備いたします。バスターミナルは、重層構造を今考えておりました、半地下部分にバスターミナル、その上を多目的広場というふうに考えております。防災公園については、おおむね平成30年ぐらいを目標に考えているところでございますが、来年度以降、基本的なことを調査検討いたしまして進めていきたいと考えております。

- 市長 ほかにはいかがでしょうか。
- 朝日新聞 朝日新聞と申します。先ほどの三菱マテリアルの廃棄物の関連ですけど、ちょっと私も不勉強で教えていただきたいんですが、正確に何がどのくらい管理されているということなんでしょうか。
- 市長 そうしたら、後ほど環境局から。管理の状況等については、ホームページ等でも三菱マテリアルも公開をしておりますけど、市としてわかる情報は後ほど提供させていただきます。(会見後三菱マテリアル株式会社作成平成25年4月24日作成資料を提供)
- ほかにいかがでしょうか。
- 日本経済新聞 日経新聞と申します。この計画の冒頭のところに当初のまちづくりの目標達成に課題を残しているというふうに書かれているんですけども、まち開きから10年以上たって、さいたま新都心の現状の発展状況、遅れているのか進んでいるのかも含めて、どういうご認識なのかというのを伺いさせてください。
- 市長 全体としてはやや遅れていた部分もあるかもしれませんが、今回のプランはこれまでさいたま新都心として位置づけていたところよりも少し先ほどご紹介しましたエリアを東側まで増やして、どちらかというところ今まで西側を中心にさいたま新都心として位置づけていましたけども、もう少し東西両方を新たに位置づけをし直して、そしてにぎわいと安全安心ということを中心とした機能を充足させていくというまちづくりにしているというものなんですね。
- それは、時代の要請もあって、非常に防災に対する意識も高くなっておりますし、新都心自体が国の出先機関などもありますから、広域的な防災機能を強化していくということが、これはさいたま市、あるいは埼玉県のためだけではなくて、日本全体のためにもなってくるだろうということで、そういった視点も取り入れた形のビジョンにしてあるとご理解いただければと思います。
- 読売新聞 読売新聞です。さいたま新都心の将来ビジョンの件なんですが、私も不勉強で申しわけないんですが、現在の例えばこの対象エリアの人口ですとか、もしくは新都心の駅の利用者数がこれぐらいで、このビジョンの運用期間を終えた後、例えばその駅の利用者が何人ぐらいに増える見込みで、

金が確認できたのが300万円ということで、おおよそをお示しいたしましたが、その後追加の寄附もいただいた部分がございます、概算では今830万円ほどになっております。日本環境マネジメント株式会社様からまたご寄附をいただいたということで、約830万円程度でございます。

- 埼玉新聞 本日現在約830万円ということですね。
- 事務局 はい、本日は。
- 埼玉新聞 それで、整備するに当たってどのぐらいの予算が必要で、あと最終的にはどのぐらいの寄附額を予測していらっしゃるかというのを教えてください。
- 市 長 現時点では、目標の金額というのは定めておりません。というのは、先ほども20キロ超という言い方をしましたけれども、20キロを超えると日本一ということになるわけですが、それで終了ということではなくて、継続的に整備をしていくということもございますので、とりあえずの期間としては5年間ということで決めておりますが、現時点では目標金額については定めていないということでございます。
- 埼玉新聞 最低どのぐらい整備費用がかかるという試算なんでしょうか。
- 事務局 整備費用ということでございますけれども、桜そのものはこの状況ですと全て寄附で賄えると考えておりますので、市のほうで支出をするのは管理費用と、それから大宮区から浦和区の区間にかけて重点整備区間ということで、遊歩道的な回廊としての整備をしていくと。その予算で、しあわせ倍増プラン2013の期間でおよそ4億円程度の工事費がかかるかなと。これは概算でございますので、これから動く可能性はありますけれども、おおむねそのぐらいの費用がかかるのかなというふうに考えております。
- 市 長 ほかにございますか。
- 埼玉新聞 関連なんですけれども、桜の時期の観光拠点になると思いますけれども、20キロ整備された段階での観光客の目標といいますか、見込みとか波及効果など、もし試算されていたら教えてください。
- 事務局 事務局からお答えします。観光客の見込みについては、試算をいたしておりません。といいますのは、特定の公園ですとかお城の跡地みたいなクローズな空間ですとカウントができるんですけれども、見沼たんぼ全域ですと1,260ヘクタール、延長で20キロあると。そういう中で、どの

ぐらいの方がお見えになるのか、具体的な数字を試算するのはちょっと困難であるということで、数字は出しておりませんが、大宮公園ですとか、盆栽美術館ですとか、そういったところへ回遊していただくという意味で観光客の増加には寄与できるのではないかとというふうに考えております。

○ 市 長 ほかにはいかがでしょうか。

幹事社質問

県議会で県立小児医療センターの移転費の修正案が可決されたことについてのさいたま新都心全体計画への影響について

○日本経済新聞 では、幹事社質問に移らせていただきます。

ちょっとさいたま新都心の話とも絡むんですが、昨日埼玉県議会で、さいたま新都心で整備を進めている小児医療センターの移転費、その増額分の55億円を削除する修正案が可決成立しました。当初原案よりも少ないということで、遅れが懸念されると思うんですけども、こういった埼玉県議会の若干混乱した印象を受けましたけど、どうぞ覧になられているのかという点と、さいたま新都心全体の計画に与える影響等をどうぞ覧になられているかということをお聞かせください。

○ 市 長 まず、全体への影響等についてちょっとお話ししたいと思いますが、本市では、さいたま新都心周辺のまちの将来像ということで、3月にこれ(さいたま新都心将来ビジョン)を策定させていただきました。埼玉県立小児医療センターとさいたま赤十字病院については、この将来ビジョンの目標の一つであります広域的な安心安全を担うまちに位置づけておりまして、さいたま新都心第8-1A街区は広域的な医療拠点として想定しているところでございます。

昨日ですか、県議会が閉会し、また新聞報道等によりますと、4月に臨時議会で審議が行われるとも聞いておりますけれども、いずれにいたしましても関係者の中で早急に協議あるいは調整が進められ、大きい方向性としては、この医療の拠点の整備充実という方向で進んでいくと理解をしておりますし、スケジュールについてもできるだけ影響がない形で進んでい

くことを期待したいと思っておりますし、それを見守っていくというのがさいたま市のスタンスだろうと思っております。

いずれにしましても、さいたま市としては、先ほど申し上げましたさいたま新都心の将来ビジョンに向けて、3つの先導プロジェクトを含めてしっかりと着実に進めていきたいと、このように思っております。

幹事社質問に関する質問

- 日本経済新聞 関連で質問があればお願いします。
- 埼玉新聞 埼玉新聞です。この小児医療の問題なんですけど、県議会の問題なんですけど、どうも構図がさいたま市に関係ある大宮区役所の移転の問題と似ているかと思うんですけども、県議会最大会派の自民党は県執行部の提案に対して説明不足などを理由にして承認を拒むみたいな形がこのところ目につきますが、こうした状況を県民や市民の立場から見てどうなのかというのを市長はどのように捉えられているか、まず1点お伺いします。
- 市 長 県議会のことでありますので、私自身がコメントする立場にはないと思っておりますけども、いずれにしましてもさいたま市にとっても埼玉県にとってもこれからの5年から10年というのは非常に大切な時期でもあるので、そういう意味では、もちろん議会の中でいろいろなチェックや、あるいはご意見などをお寄せいただくということはものすごく大切なことだと思っておりますけども、ただあわせてしっかりお互いコミュニケーションしていくということは大変重要なことだろうと思っておりますので、そういったコミュニケーションをしっかりといただきながら進んでいかれることを期待したいと思っております。
- 埼玉新聞 もう一点が、市が計画していた保育支援の付加施設、計画されていた小児病院に隣接するような形で考えられていた計画が感染症の危険などから途中取りやめた経緯がありましたけれども、その後どうなったのかお聞かせください。
- 事務局 現在も当初の計画のとおり、8—1A街区の中で計画したいというところは基本としては持っているのですが、まだ正確にどこの場所というところまでは決まっていない状況です。

- 朝日新聞 関連で。市長もこの事業に関しては早期整備を推進するお立場だと思うんですけども、市長のほうから県議会の自民党に対して何か働きかけをするようなお考えはありますか。
- 市長 県立の小児医療センターに関することですので、私どもからあえて何かお話をしていくということについては権限を超えたところにあると思っておりますので、ただ私たちとしては、市民、県民の立場からは、それが順調に推移をしていくということを期待しているということです。
- 朝日新聞 ただ、日赤とは一体的な整備になるんですよね。
- 市長 その辺の影響がどういうふうに出てくるのかというのは、現時点では何とも言えないと思っていますので、いずれにせよできるだけ影響がない形で収束をしていく、ご理解をいただけるようになっていくということを期待をしたいと思っています。
- 日本経済新聞 それでは、別の質問がある方はよろしく申し上げます。

その他の質問

ベビーシッターに預けられた子供の死亡事故を受けての市の対応について

- 時事通信 時事通信です。お願いします。
先日、富士見市のマンションでベビーシッターに預けられた男の子が亡くなるという事件がありましたけれども、このことについて、まずこの事件の受けとめと、それからベビーシッターに対する行政側の監督ですとか規制とか何かの必要性を感じていらっしゃいましたら、市独自のもの、もしくは国への要望を含めて伺いたいと思います。
- 市長 まず、今回の事件でありますけれども、ベビーシッターを名乗る男性の自宅におきまして2歳児のお子さんが亡くなられたということは大変痛ましい事件であり、二度とこういうことがあってはならないと考えております。亡くなられたお子様に対し心からお悔やみを申し上げたいと思います。
このことを受けまして、市としても所管に対して事業者の把握などを指示しているところでありますが、ベビーシッターについては、ご存じのことかと思いますが、届け出の義務がないということで、事業者の把握が現在では非常に難しい状況でございます。ベビーシッターに限らず、保育サ

ービスを利用される場合には、市の子育てウェブにも、厚生労働省のベビーシッターなどを利用するときの留意点というものを掲載しておりますので、これをご確認いただきながら、必要に応じて市にも相談をしていただきながらご利用いただければと思っております。

市としては、ベビーシッターとは違いますけど、ファミリーサポートセンターという形で急に子供を預ける必要性が出てきたり、あるいはなかなか通常の形態の中では難しいというケースについて、こういったファミリーサポートセンターという形で育児の援助を受けたい方と育児の援助を行いたい方のマッチングをさせていただいて進めさせていただいているところでありますけれども、今後そういった事業についてもっと広く周知を図っていきたいと思いますし、その辺についての安全確保についても取り組んでいきたいと思います。

いずれにしても、現時点ではこのベビーシッターというものの登録の義務であるとか届け出の義務といったものがございませんので、今後こういったものが広がってくるということになるとすれば、そういったことも必要になってくるのかなとは思っております。

○ 埼玉新聞 関連なんですけども、ファミリーサポートセンターというのはなかなか普及していないような気もするんですが、昨年の稼働実績、預けている実績とか、もしわかったら教えてください。

○ 市長 まず、ファミリーサポートセンター事業と、あと子育て緊急サポートという2つがあるわけですけど、まずファミリーサポートセンター事業についてでございますけども、これについては平成24年度の活動件数ということで言いますと1万4,804件ということになります。依頼会員、預けたいと思っていらっしゃる会員の方が3,320名、提供したい、お手伝いをしましょうというふうに言ってくださっている方が845人、両方の会員になっている方が310名ということでございます。

それから、子育て緊急サポート、これは急に子供をどうしても預けなければならぬ、あるいは場合によったら宿泊を伴う預かりというものが必要だという場合の事業でございますけれども、これについては平成24年度で2,144件でございます。

○ 時事通信 今のベビーシッターの件で追加なんですけれども、先ほど市長は登録と

か届け出が今後は必要になってくるという認識を示されましたが、それは国全体で厚労省なりがやったほうが良いとお考えなのか、それともそれに先立って市としても何か検討されていくのか。

○ 市長 基本的に法整備というのが前提になってくるのではないかと考えています。現時点のベビーシッターの状況について、国も各自治体に現状について把握をするようにということで話も来ておりますので、まず私たちとしてはその状況をしっかり把握をした上で、今後どういう制度が必要なのかということについては、現場に近い自治体ですから、それを検討して、国に対してもいろんな形で要望なり、あるいはお伝えをしていくということをしていきたいと思っています。

○ 埼玉新聞 埼玉新聞です。先ほどのファミリーサポート事業と子育て緊急サポート事業に関連して質問なんですが、一時預かりとか待機児童の問題以上になかなか預かってくれる人が見つからないという話を現場なんかでよく聞くんですけども、実際のさいたま市、これだけの実績がありますが、需要に対して足りているのかどうなのかというのは、どのようになっていますでしょうか。

○ 事務局 所管がちょっと違うんですが、一時預かり、市内の認可保育所、それから認可外、ナーサリールーム・家庭保育室のほうでも事業としては実施しております。正確にどれぐらいとかというところは、数はこちらでは把握しておりません。

○ 市長 ニーズに合っているかどうかということについては、日常적으로お預けするというニーズだけではなくて、一時的に預かっていただきたいというニーズも非常に高いものがあると思っていますので、そういったことについても十分充実を図っていくことが必要だと思っています。

その他の質問

地方自治法改正案が閣議決定されたことを受けて

○ 日本経済新聞 日経新聞です。別件なんですけれども、先日地方自治法の改正案が閣議決定されまして、区の事務を条例で定めることができるというのと、あと議会の同意を得た上で総合区長というものを置くことができるという内容で、区の権限を強める内容ですけれども、こういった改正案について市長

はどのようなふうにご評価されているのかということをお聞かせください。

- 市長 まず、総合区についてですけれども、現時点でもさいたま市として区に必要な権限を移譲していくということについては今いろいろ取り組みを既に行っているつもりでいます。

さいたま市の場合、合併してできた市ですから、私自身が思っているのは、合併してスケールメリットを生かして行ったほうがいい業務と、あと各区ごとにきめ細やかにやったほうがいい業務、事務事業というのがあると思っております。それをしっかりと区分けをした中で、きめ細やかにサービスをしていく部分については、区に権限移譲をしていくということでこれまでも進めてきているつもりでいます。ただ、今回総合区という形で、よりそれがある意味では強化をできる部分もあるとは思っていますけれども、いずれにせよ中身をよく精査をしながら、この総合区を取り入れていくほうがいいのかどうかということについては、もう少し私たちなりに検討していきたいと思っております。

- 日本経済新聞 もう一点、その改正の内容で、都道府県と政令市が調整会議を設置するというのも盛り込まれていますけれども、これが二重行政の解消につながるのかどうか、この会議のご評価をお願いします。

- 市長 これについても、平成23年度から埼玉県とさいたま市と、企画調整協議会というものを設置させていただいて、いわゆる二重的になる行政サービスであるとか、あるいは連携したほうがもっと効果があるサービスについて協議を行って、それなりのいろいろな効果を上げています。共同でやることによって、さらにサービスの質が高まったり、充実をするというようなことも含めて、効果を上げてきたところだと思っていますので、基本的にはそれらを発展型にした形が、今回の調整会議というものになるのかなと思っていますので、私たちとしては制度的にはこういったことをやってきましたけれども、これらを法律として明記していただくことについては、基本的には賛成でもありますし、前向きに評価をしたいと思っています。

その他の質問

さいたまシティマラソンのフルマラソン化の課題等について

- 毎日新聞 毎日新聞です。
- 今日さいたまシティマラソンのフルマラソン化についての提言書が提出されたと思うんですが、改めて平成28年度のフルマラソン実施ということに向けての市の準備スケジュールですとか、あるいは交通規制ですとか、課題もあるかと思うんですが、市長が考える実現可能性と、まだ残っている課題について、改めてお考えをお聞かせください。
- 市長 今日ご提言をいただきましたけども、来年度からフルマラソン開催のための準備委員会というものを設置をしていきたいと考えております。
- その中で、開催についての基本計画であるとか、あるいは具体的な実施計画等を協議していきたいと思っております。
- また、中身についてもその中で具体化をし、あとコースの問題、これ一番大きな一つのハードルかと思っておりますので、そういったことも含めて今後検討していきたいと思っております。
- いずれにしても、私も現在のさいたまシティマラソンのハーフに何度か参加をさせていただいていますけども、やはり今このマラソン、あるいはジョギングが非常にブームになって、土曜日、日曜日を含めて非常にそういった愛好者の方々が増えていますし、大きなシンボリックな大会があることで、そういった方々がより一層増えてくるという感じを実感としても持っています。
- これ、ちょうど先々週ですか、さいたまシティマラソン走っているときにも、皆さん（から）走りながらぜひフルマラソンにしてほしいと随分要望をいただきましたので、皆さんの期待も大変大きいと思っております。
- ただ、やはりコースの問題であるとか、あるいは運営に当たってのいろいろな課題もあると考えておりますので、来年度以降進めていく委員会の中で、しっかりと準備に当たっての詰めを行っていききたいと思っておりますけども。
- ほかにはいかがでしょうか。
- 埼玉新聞 フルマラソン化に関連してなんですけども、政令市で行うフルマラソンということで、一つの基準としてですね、日本陸連の公認コースになるかどうかというのは、有力選手が参加するかどうかという非常に重要な要素になると思うんですが、この公認コースにするかどうかという部分は、市

長として優先順位としてどのぐらいの重さを置いて考えていらっしゃるのでしょうか。

○ 市長 そうですね、提言の中でも、できれば公認コースにして欲しいというようなご提言が含まれておりましたし、私たちも基本的には、できるのであれば公認コースにしたいという思いはございます。そのことによって、多くの方が参加しやすくなる、あるいはかなり日本の中でもトップレベルの方々も参加いただける可能性があるというようなことになってくると思いますので、そういう方向で検討していきたいと思いますが、ただ公認コースになることで、幾つか超えなければいけない課題などもあるかと思っておりますので、そういったことも十分に踏まえながら対応していきたいと思っております。

○ 埼玉新聞 関連なんですけども、そのフルマラソン化にあたってですね、制限時間というのが一つの参加のハードルを決めてしまうということで、それ一つ焦点になっていますが、市長がですね、ご自身がフルマラソンに参加されるとした場合に、どのぐらいの制限時間が自分ではほしい……。

○ 市長 それは個人的にということですね。

○ 埼玉新聞 そうです。

○ 市長 そうですね、個人的に言うとやっぱり7時間ぐらいは欲しいなという感じはしますね。今さいたまシティマラソンをハーフで2時間40分というのが制限時間ということになってはいますが、やはりこれが倍になってということになりますと、やっぱり7時間ぐらい、これよりちょっと短いなかなか完走できる方が限られた方々になるのかなということもありますので、個人的には7時間というのが一つ目安になってくるのかなと思っておりますが、ただ交通規制の問題などもございます。また、コースの中の問題もあるかと思っておりますので、そういったことも踏まえて検討していきたいと思っております。

○ 埼玉新聞 基本的には、ご自身も走りたいと考えられている。

○ 市長 そうですね。できれば1回目のフルマラソンには、ぜひ走って完走したいと思っております。

その他の質問

浦和レッズの無観客試合に対する市長の受けとめは。

- 埼玉新聞 別の件なんですけど、先日、浦和レッズがホームスタジアム、一部サポーターが差別的な内容の横断幕を掲げていたということで無観客試合になりましたが、それで23日、清水戦で無観客で行われました。この件に関して、改めて市長はどのように受けとめていらっしゃいますでしょうか。
- 市長 そうですね、まずどのような真意があったかは定かではございませんけれども、いずれにせよ差別的な内容と捉えられるような偏った思想であったり、信条に基づく横断幕が、やはりJリーグの公式戦のときに掲示をされていた、夢や希望を与えるスポーツを行う場に掲示されたということは、大変残念であると思っています。
- 今回のこういったことを踏まえて、やはりそういった差別意識というものをなくしていくという取り組みは、これはスポーツだけではなくて、社会全体としてもしっかり行っていかなければいけないとも思っていますし、レッズについてはチーム関係者はもとよりサポーター、それからホームタウンである私たちも含めて、一緒になってそういった取り組みを進めていきたいと思っています。
- 埼玉新聞 4月2日にナビスコカップで、浦和が無観客の後、最初のホームゲームがあって大宮と対戦するということですが、市長はそこへ観戦に行かれるんですか。
- 市長 現時点では、ちょっとまだ未定ですけど、多分スケジュール的にはちょっと厳しい状況ではあるので、今のところちょっとまだ何も言えない状況です。
- 埼玉新聞 どんなゲーム、どんなサポーターの応援を期待していますか。
- 市長 もちろん今までどおりの、やはりそれぞれのチームを愛し、また応援をするという、元気な応援というのは必要だと思いますけども、ただ、それは応援をされている皆さんが、そういった国境だとか、あるいは人種だとか、いろいろなものを超えて一緒に応援していくということだろうと思いますので、そういう視点をやはりしっかりと忘れずに応援をしていただきたいなと思っています。

そういう意味では、両チームとも非常に熱狂的なすばらしいサポーターの方々はたくさんいらっしゃいますので、その辺は十分ご理解をいただいて、すばらしい応援をしてくれるだろうと思っていますけど。

○ 埼玉新聞

あと、もう一点なんですけど、今回の問題は日本以外でも、特にサッカー場で人種差別的な言動があったり、それはサポーターだけじゃなくて選手に一部であったりとかすることで、レイシズムが台頭しているんじゃないかということで問題になっていることが、日本でも例外じゃなかったというのを示す例だったと思うんですけども、これに関して、さいたまサッカータウンという、サッカーのまちということを行っているという立場からしても、何か今後、先ほども何かやっていきたいということは言っていましたけど、こういう取り組みをしたいですとか、こういうメッセージを発していきたいとか、何か市として、もしくは市長ご本人個人として、考えていらっしゃるがあれば教えてください。

○ 市長

そうですね、具体的に今どういうことに取り組んでいくかということについては、ちょっと申し上げられませんが、これまでそういった人権問題についての教育であったり、あるいは人権問題についての普及啓発についてはさいたま市としてもいろいろな形で取り組ませていただけてきました。

特に人権問題については、人権啓発の講演会とか、あるいは企業向けの研修会、あるいは差別を許さない人権週間など行わせていただいたり、あるいは相談窓口をつくって、そういった人権問題の相談に応じているというようなこともございました。

また、さいたま市役所の中におきましてもですね、一般職員を対象としてそういった新規採用職員の研修であったり、新任課長補佐の研修であったり、そういったことも取り入れさせていただいておりますので、もちろんそういったことをより一層強化し、周知徹底を図っていくということは、その一つであろうと思っていますけども、あわせて、やはりサッカーのまち、またスポーツのまちでもありますし、またちょっと観点は違う部分もありますけど、障害のある方ない方がともに暮らしていけるノーマライゼーション条例というものを推進している都市でもありますから、そういった人権意識の普及啓発については、これまで以上にしっかりと取り組ん

でいって、むしろさいたま市がそのモデルとなれるようにしっかりとや
ていきたいと思っています。

○ 時事通信 時事通信ですけど、今のレッズの横断幕のことに
関してなんですけれども、さいたま市はレッズの株主でもありま
すけれども、株主としてですね、クラブ側に対して今後の改善策
とかですね、何か求めていくこと、また求めたことというのは
ございますでしょうか。

○ 市長 報告にもお見えになりましたし、今後また取締役会、
あるいは株主総会等々あるかと思いますが、そういった場面でも
しっかりとした具体的な取り組み策、それから状況については
十分チェックをしていきたいと思っておりますし、やはりこう
いったことが二度と起こらないようなチームづくり、ある
いはサポーターとの信頼関係づくりなどについてもしっかりと
具体的な取り組みを行うように要請を、先般来たときにも
そういった要請をさせていただきましたけれども、重ねてそれら
については、年に何度か取締役会がござい
ますので、要請をしていきたいと思っております。

○ 時事通信 今、報告にお見えになったとおっしゃ
いませけれども、どなたがいつお見えになって、どのよ
うな報告があつて、それに対して市長はどのような
ことをおっしゃったのか、伺えますでしょうか。

○ 事務局 スポーツ振興課です。
掲出をされて、Jリーグのほうで処分が発表になりました
ので、その日のうちに市のほうへ報告に、社長以下参
っております。

○ 市長 そのときに、今言ったような内容のこと
をお話させていただきました。そして、やはり特定の人
たちだけではなくて、みんなが応援できる、そ
ういったレッズにして欲しいというような要請も
しましたし、そのために私たちホームタウンも
できる限り応援をしていくというようなお話を
させていただきました。

○ 時事通信 ありがとうございます。

○ 埼玉新聞 関連なんですけれども、今回の大きな
社会的な事件になりましたが、これまでに浦和
レッズは外国人排斥的な行動によるペナル
ティーを科せられたりとか、いろいろ問題
起こしてきましたけれども、市として何か
改善や要請を出したのは、今回が初めて
ということでしょうか。これまでも何
らかのそうした改善、要求をされてきた
経緯があるんでしょうか。

- 事務局 スポーツ振興課です。
 今回レッズのほうには、今後このようなことはないようにということで再三お願いしているんですが、今までも当然同じようなお願いをしております、改善策という形ではしてはおりませんが、今後このようなことがないようにということで口を酸っぱくして言っているところでございます。
- 埼玉新聞 これまでのお願いというのは、具体的にどういうことをお願いされてきたんですか。
- 事務局 去年の清水でのサポーターによる襲撃事件等ありましたが、その際もすぐに報告に来ておりますので、二度とこういったことがないように、サポーター同士のいざこざがないようにということをお願いをしてございます。

その他の質問

さいたまクリテリウム 2 回目の開催に向けての市長の考えは

- 埼玉新聞 先日さいたまクリテリウムの来年度というか、今年の秋の開催ということで正式に調印がありました、まず 2 回目の大会をどういう大会にしたかということ、市長のお考えをお聞かせください。
- 市 長 どういう大会にしたいか。
- 埼玉新聞 はい、どういう大会にしていきたいか。
- 市 長 1 つは、1 回目を終えて、やはりいろいろ運営上の問題、議会の皆様をはじめ、市民の皆さんからも多くご指摘、あるいはご意見をいただいたところがございますので、しっかりとそういったことについては改善し、また円滑な運営ができるような形にしていきたいと思っております。

 また、あわせて 1 回目のときにお見えいただいた方々もたくさん、初めて本格的な、世界的な選手、またそのレースを見ていただいたということで大変感動して素晴らしい大会だったという声も一方でお寄せいただいておりますので、私たちはやっぱりそれを大切にしていきたいと思っておりますので、第 2 回目もまた 1 回目にはないいろいろな工夫もさせていただきながら、やっぱり多くの、1 つには子供たちが夢と希望を持ってもらえる

ような大会にしたいと。

それから、これから進めていくさいたま市の自転車のまちづくりのシンボリックな大会になるように、いろいろな工夫ですね、市民の参加であるとか、あるいは盛り上げていく取り組みの市民あるいは地元の事業者との連携であるとか、そういったことなども十分に工夫をしながら、より多くの皆さん、市民の皆さんを巻き込んだ形でこの大会を盛り上げ、また運営をしていきたいと、このように思っています。

○ 埼玉新聞 その調印の日ですね、正式な開催日と、あと開催コースはまだこれから決めるということだったと思うんですが、これはスポンサーとか協力企業、また協力する関係者に提案したりする上で、早く具体的な日にちとかコースを決めなくて大丈夫なのかなと思うんですが、いつごろまでに決まる予定なんでしょうか。

○ 市 長 そうですね、正式に日程、あるいはコースを決めるには、関係機関との協議が必要になりますので、そういった協議を経た上でということになります。

ただ、今お話のとおり、やはりできるだけ早く日程、そしてコースを決めるということは、これからの準備作業をしていく上においても非常に重要だと思っていますので、これらもできるだけ早くという言い方しか現状としてはできませんけども、幾つかいろんな案などもありますから、それらも含めて関係機関と協議をして早いうちに決定をしていきたいと思いません。

○ 埼玉新聞 おおむねいつごろまでというのがありますか。

○ 市 長 そうですね、日程については、4月中には・・・

○ 事務局 そうですね、できるだけ早くということなんですけども、目標としては4月中ぐらいには決めていきたいと考えているところでございます。

○ 埼玉新聞 コースはいつごろですか。

○ 市 長 できれば同じタイミングが望ましいとは思いますが、ただ、コースの設定についてはまた細かいいろいろな調整なども必要になるので、おおむねのコース設定はできるかもしれませんが、いずれにせよコースのほうはちょっともう少し時間かかるかもしれませんね。

○ 埼玉新聞 あと、今回2回目開催ということで、昨年の反省を踏まえて、事務方の

組織改編等で充実を図られていると思いますが、実行委員会については、先日最後の実行委員会があって、来年度も同じメンバーでというような話がちょっとあったと思うんですが、何か体制の充実とか、もしくはあと権限等で、もう一つ実行委員会、報告の場になってしまっているような気が、何回か取材して思ったんで、その辺をより、いろんなことを本当に決める場所、チェックする場にするために、何か変えるような予定があるようでしたら、それを教えていただきたいんですけど。

- 市長 既に議会等でも、担当のほうからも答弁しているかとは思いますが、基本的には、これまでの実行委員会の皆さんに加えて、より多くの団体の方々などに参加をいただきたいと思っております。現在その調整であるとか、あるいはどういったところに入っていくかというところの詰めをやっている最中というところであります。

それから、具体的に、ただ承認いただくということだけではなくて、やっぱり運営に当たっていろいろお知恵を借りなきゃいけない部分もあるかと思っておりますので、部会をつくってそれぞれ民間の皆さんからもいろいろお知恵をいただき、また市としてというよりは、民間の皆さんにも工夫をしていただいて、このクリテリウムを盛り上げていただけるような取り組みなども検討していただいたり、より参加度の高いといいますか、実務的なことなども踏まえた体制にしていきたいと思っております。

- 日経新聞 よろしいですか。

では、以上で記者からの質問を終わらせていただきます。

- 進行 以上をもちまして、市長定例記者会見を終了させていただきます。

次回の開催につきましては、4月の10日木曜日、13時30分から予定をしておりますので、よろしく願いをいたします。どうもお疲れ様でございました。

午後2時30分閉会

※ この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣いなどを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）あるいは「会見後訂正」とし、下線を付しています。